

データ基盤課活動実績（令和2年度）

6NCの専門性を生かしつつ有機的に連携するためのデータ集積基盤の強化と拠点化を進めている。6NCの電子カルテ情報を統合的に利活用するプラットフォーム構築、超高速ネットワークによる6NC相互接続、既存疾患レジストリとの連携、および研究でのICT利活用支援をおこない、世界最高水準の研究開発・医療に向けたイノベーション創出支援に取り組んでいる。

1. JH運用のための情報基盤の構築

- 地理的に離れた各NCのJH職員のためのクラウド業務環境の構築および情報機器の整備
- セキュアなリモートワーク環境及びオンライン会議環境の構築
- セキュリティ情報共有のためのJH Security Alertを運用開始

2. JH データポリシーの策定

- JHが支援する研究で収集されたデータに関する、JHデータポリシーを作成

3. JH Super Highwayの構築と研究推進のためのクラウド環境構築支援

- 全ゲノム解析や、医療ビッグデータに対応するために、JH Super Highwayを構築
- 6NC・9施設 のネットワークを10Gbpsの速度で SINET接続する計画を策定し推進
- 令和2年度は、3NC・4施設が接続 。令和3年度中にすべてのNC・施設が接続予定
- クラウド環境を利用した、6NC抗体調査の電子調査票作成と運用支援を実施



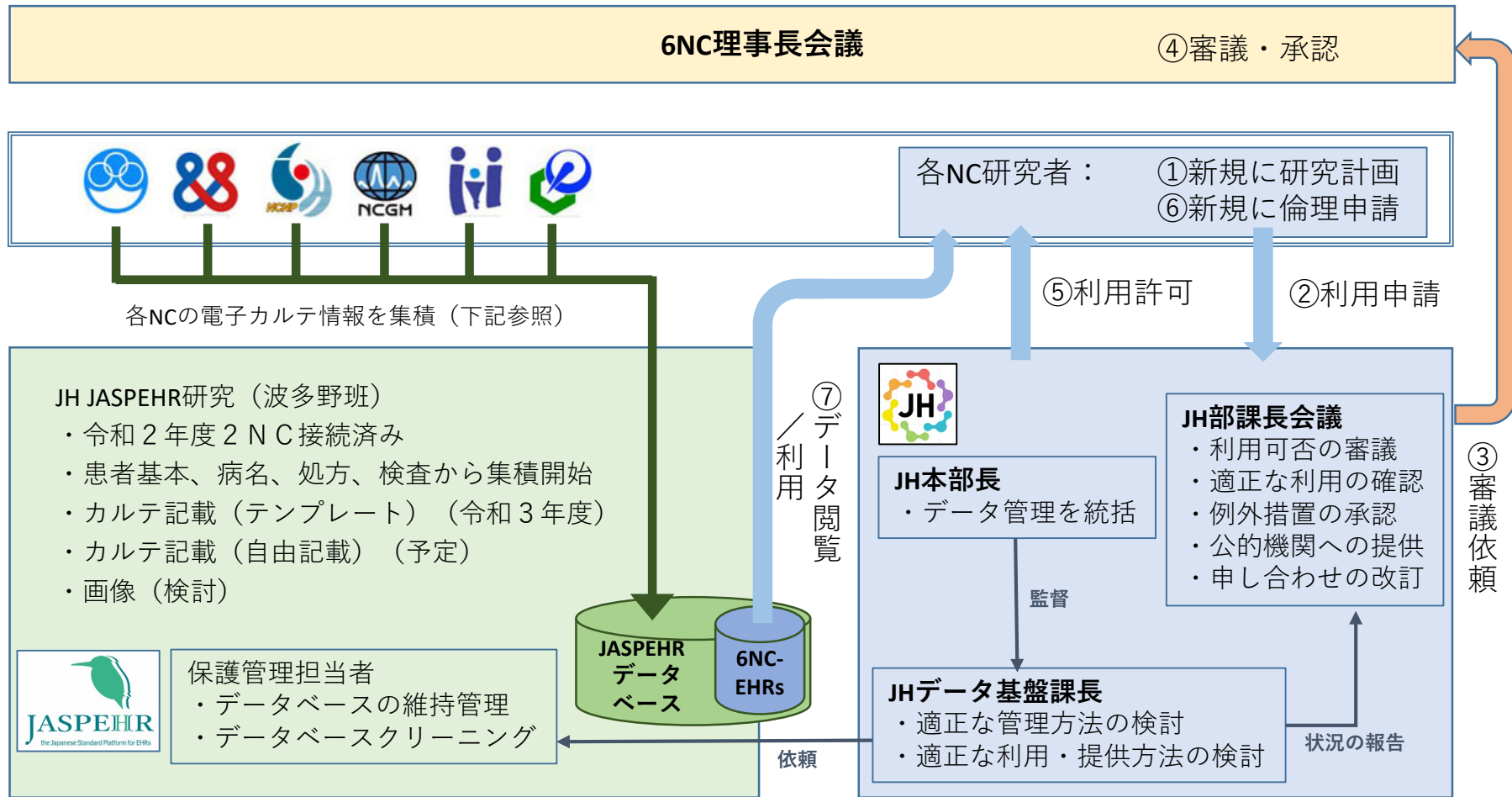
4. 6NC電子カルテ統合データベース(6NC-EHRs)の構築と運用ルールの検討

- 6NCの専門性の高い疾患の疾患横断的な研究への活用や、コントロール群としても活用可能なデータベースを目指して検討
- 電子カルテ統合データベース構築研究である、JASPEHR研究(JH研究:波多野班)の匿名化されたデータを、二次利用として各NCの臨床研究に活用するスキームを検討し構築を開始
- データ利用希望者は新たに研究計画を策定し、倫理審査を別途受審することとし、データ利用に際してはJHに利用を申請し、6NC理事長会議のもとで利活用をすすめることを軸に運用ルールを検討
- 6NC-EHRsを利用した小規模のプロトタイプの研究を開始し、本格運用する前の課題(データクリーニング、運用管理手順の確認等)を抽出・検証するための検証を並行して実施

5. 活動の方向性のための各NCからの意見集約と情報共有

- 各JH研究班にデータ基盤課の活動に対する要望を聴取し活動計画に反映
- データ基盤課の取り組みについて、6NCのカウンターパートと情報共有し、情報共有することで、JHと6NCが有機的に連携
- 2020年度はデータ基盤課6NCカウンターパート連絡会議を9回開催

6NC-EHRsの運用と利活用の概要



電子カルテデータ集積基盤を構築する研究

収集したデータの利活用